

ひろかだより

第401号

令和7年12月16日

発行

弘果

弘前中央青果株式会社

津軽のうまいがここにある

歳末大開放

年末のお買い物は弘前水産で!

24日(水)は
休場日です

12/22(月)~30(火)
毎朝午前10時まで



令和7年産りんごは、天候、害虫被害、鳥獣害が、生産量、品質面に大きな影響を及ぼしました。

8月2日の開市から11月29日までの累計は、弘果が数量313万6千箱（前年同日比89.1%）、平均単価633.5円（同102.2%）、津軽りんご市場が数量5%、平均単価616.6円（同100.7%）と、両市場ともに入荷数量減となり、高単価で推移しました。昨年を上回る単価で取引されました。

生産面では、昨年末からの大雪による枝折れ等の雪害がありました。また、6月、7月の干ばつによる影響から全体的に小玉

傾向となり、9月の暴風による落果や樹上被害の他、害虫（ナシマルカイガラムシ・カメムシ）による被害果が多く散見され、圃場での廃棄も多くなりました。ジョナゴールド、有袋ふじ

について、高温の影響で着色管理が難しくなってきており、袋栽培へ移行する生産者が多くなりました。これらの要因から、入荷量は前年を下回りました。

販売面では、他県産りんごも高温による品質の低下や、着色不良の影響で出荷が遅れました。販売面では、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。また、大玉や良品物の入荷が少なく、全体的に品薄感があり、業者の長期貯蔵用の本格的な仕入れや輸出需要の高まりから、上実

から、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。また、大玉や良品物の入荷が少なく、全体的に品薄感があり、業者の長期貯蔵用の本格的な仕入れや輸出需要の高まりから、上実

から、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。販売面では、青森県産りんごも高温による品質の低下や、着色不良の影響で出荷が遅れました。販売面では、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。また、大玉や良品物の入荷が少なく、全体的に品薄感があり、業者の長期貯蔵用の本格的な仕入れや輸出需要の高まりから、上実

から、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。販売面では、青森県産りんごも高温による品質の低下や、着色不良の影響で出荷が遅れました。販売面では、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。また、大玉や良品物の入荷が少なく、全体的に品薄感があり、業者の長期貯蔵用の本格的な仕入れや輸出需要の高まりから、上実

から、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。販売面では、青森県産りんごも高温による品質の低下や、着色不良の影響で出荷が遅れました。販売面では、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。また、大玉や良品物の入荷が少なく、全体的に品薄感があり、業者の長期貯蔵用の本格的な仕入れや輸出需要の高まりから、上実

から、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。販売面では、青森県産りんごも高温による品質の低下や、着色不良の影響で出荷が遅れました。販売面では、青森県産りんごへの期待が高まり、早生種から国内での引き合いが強くなりました。また、大玉や良品物の入荷が少なく、全体的に品薄感があり、業者の長期貯蔵用の本格的な仕入れや輸出需要の高まりから、上実

弘果この一年

やさしい

年明けから春先にかけての青森県内では、大雪の影響から雪解けが遅れ、春作業がずれ込みました。青森県外では、低

温・干ばつの影響から生

育が鈍く、各産地の出荷

数量が少なく、単価高で推移しました。

4月以降からは、全国的な気温の上昇により、葉物類の入荷量は増加しましたが、大型野菜、果菜類は出回り量が回復せず、高値での販売が続きました。高値相場が続いたことから末端での消費

は鈍い状況となりました。5月中旬からは関東以西の産地が出揃い、潤沢な出回り量から、単価安での販売となりまし

たことから、例年通りの販売単価と

荷となり、各産地とともに順調な出

荷となりましたが、北海道産の玉葱は、夏場の高温、干ばつの影響から、過去にない程の減産となりました。パインは、台湾産において果肉の変色等、品質面で問題があり、入荷が激減しました。フリーピン産は日本入荷が潤沢なことから、台湾産の不足を補い、商

社の協力を得たことから量販することが

た。県内では、春作業の遅れが尾を引き、出荷の遅れが多品目において見受けられました。

7月以降は、全国的な高温の影響から品質退化品が多く、出回り量が少ないとから、単価高での取引となりました。県内産は、大型野菜の軟腐病の発生や、果菜類の高温障害が散見され、良品物が少ない入荷が続きました。

9月以降からは、東北、北海道産がメインの販売となり、県内産への引き合いが強く、堅調な販売となりました。10月中旬からは関東以西の出荷が始まりましたが、夏場から続いた高温の影響で出回り量が少なく、高値で推移しました。

今後は、各産地とともに順調な出

荷となりますが、北海道産の玉葱は、夏場の高温、干ばつの影響から、過去にない程の減産となりました。パインは、台湾産において果肉の変色等、品質面で問題があり、入荷が激減しました。フリーピン産は日本入荷が潤沢なことから、台湾産の不足を補い、商

社の協力を得たことから量販することが

年明けから春先にかけ

ての青森県内では、大雪の影

響から品質退化品が多く、出回り

量が少ないとから、単価高での

取引となりました。県内産は、大

型野菜の軟腐病の発生や、果菜類の高温障害が散見され、良品物が少ない入荷が続きました。

一方、エクア

ドル産及びそれを原料

とする「ハロー・キティ

バナナ」は、一部商社

の輸入撤退による日本入荷の減少と単価高

の影響から引き合いが弱く、低調な販売と

なりました。パインは、台湾産において果

肉の変色等、品質面で問題があり、入荷が

激減しました。パインは、台湾産において果

肉の変色等、品質面で問題があり、入荷が

農業の未来を拓く！新規就農者



長尾
泰孝さん

やすたか
(33)

【園地所在地】青森市浪岡北中野
【作付状況】りんご・3.8ha
【就農年】2021年
【きっかけ】青森市の出身で、大学進

農業に大きな夢と希望を抱いて就農した人にスポットを当て、紹介します。農業の未来を切り拓く就農者を弘果グループは応援します。

【現在】

「園地をデザイン、アップデートしていく」と言えれば大きさかも知れませんが、既存の丸葉、新たに取り組んだワ化、そ

れました。来年の干支「午」や招き猫、クリスマス関連の絵柄が入った6種類234点の作品が出展され、競売では、七福神や松竹梅等の文字絵が入ったムツ17個で構成された「宝船」が当日最高値の15万円で取引されました。



創作文字絵りんご競売発表会

岩崎さんは競売後「夏場の高温や9月に発生した強風の影響で、量を確保するのに苦労しましたが、競売では高値で取引していただき、今後の制作の励みとなりました」と話していました。



第28回 弘前市場まつり 大盛況！

が11月23日、弘前水産方が卸売市場で開催されました。同まりは、弘前市場まつり実行委員会が「より親しまれる身近な総合市場」をPRしようと毎年11月の日曜に開いてきたもので、今年で28

回を迎えます。当日は、開催を期待していた人々で賑わい、約2万1千人が来場しました。名物となつた3メートルの大鍋で煮込まれた約3千食分の「カニ大鍋」の振る舞い、セレモニーでは「紅白餅まき」、各会場においては、魚介類、野菜、果物、花き等の販売、みかんの詰め放題、巨大アップルパイの実演即売会、マグロ解体実演販売会、模擬競り等が行われました。また昨年に引き続き、



田舎館いちご現地検討会・目揃え会開催

田舎館いちご研究会（白戸弘樹会長）では12月2日、クリスマスや年末年始の出荷最盛期に向けて現地検討会、目揃え会を行いました。同会が出荷するいちごは、平成28年から田舎館ご当地キャラクター「いち姫」がデザインされたパッケージをまとめて生産しています。昨年からは、長年にとことんこだわった「食味」「品質」が産地「田舎館」、「美味いいちご」を目指すことを各会員が確認しました。



求めで行列ができる大鍋」を目当てに早朝から並んでいますが、ほかにも模擬競りやマグロ解

ントが盛りだくさんで心が躍りました。来年の市場まつりも今から楽しみです」と話していました。

りんご剪定勉強会 開催のお知らせ

弘果りんご連絡協議会 ※葉とらずふじの剪定は各地区にて開催します

1月6日(火)9時30分～
場所：小笠原昇氏園地
講師：安田修明氏、太田直人氏、
小笠原昇氏

1月8日(木)9時30分～
場所：桑田毅氏園地
講師：葛西肇氏、山田敏彦氏

大紅榮

1月13日(火)9時30分～
場所：有田ヤマセ農園園地
講師：工藤浩政氏、鳴海純氏

津軽りんご市場連絡協議会

1月17日(土)9時～
場所：白鳥一成氏園地
講師：葛西伸氏、木村由則氏、
松山聰氏